栩野正喜の勁草塾・・「一鍬一鍬」

私は31年前、サラリーマンを23年経験して、
船井流を名乗る資格を得て起業した頃、
「一番商品」を「手探り」状態で模索していた時、
「禅」に興味を持って書物で学んだ時期があった。

「禅」の基本は「強く生きる」であり、そのコツを説いており
中にはシンプルに「一鍬一鍬、南無阿弥陀仏」という鈴木正三師もいた。

「一鍬一鍬」つまり「土を耕す鍬入れを感謝の気持ちで行なう」という事で、
毎日の単純な仕事の繰り返しに飽きて不満に思うことがあるが、
その不満を感謝の気持ちに置き換えると仕事(一鍬)が楽しくなるのだが
当時の仲間は船井総研の悪口を語り合う会合をつくって
自分のことを棚上げしていたのだが、
私は、それには同調しなかった。

私自身は「楽しそうに行なう」が大切だと思って
人生にはいろんな境遇が現れるが、
うまく行かない時は気分的に負けないように
「楽しそう」を意識して境遇に接するようにしている。

この勁草塾も75回を数えるが、
毎回、テーマに困るが、何かのキッカケを得て書き始めると
次第に筋が通るようになり「勢い」がついて今回も書いている。

「一鍬一鍬」つまり、何かに手をつけると結果が出て「次」があるが、
グチの言い合いしていても「次」にはつながらず、
「貧すれば鈍する」という結果になりかねないと思っている。

「着眼大局、着手小局」と言うが、マクロなことも手を付けると
徐々に見えて来ると思っている。

【勁草塾のバックログはホームページにあります！】